

小学校
国語
指導資料

言葉の特徴を知って正しく書こう

文章を正確に読んだり、より相手に分かりやすい文を書いたりするためには、文の組み立てを意識することが大切です。主語と述語との照応関係が大切であることや、修飾語の役割を理解し、効果的に使用することが大切であることに気付けるように指導する必要があります。具体的には、児童が文章の分かりづらさに気付き、より分かりやすく伝える必要性を実感できるよう、他者に向けて話したり、目的や相手を明確にした実用的な文章を書いたりする学習での指導が考えられます。また、児童が自分で書いた文や文章を推敲し、内容が相手に伝わりやすくなったかを読み返す習慣を付けることも大切です。

ワークシート活用場面例

第2学年 10月

「主語と述語に気をつけよう」
(光村図書 二下)



主語と述語の関係を理解することが、大切です。

ポイント

例えば、「はしたた。」「かいた。」など、述語のみの文を提示し、主語を補って多くの文を作らせます。そして、補った主語の中には、人物を表す「誰は(が)」だけでなく、事物や動物などを表す「何は(が)」に当たるものがあることを意識させます。

さらに、主語と述語とが照応していない文を提示し、述語との関係を考えながら主語を補ったり、置き換えたりするなど、主語と述語を照応させるようにします。

文を構成する成分は、多くが修飾語です。主語、述語の照応を適切にとらえることが、修飾語の理解にもつながります。

第3学年 10月

「修飾語を使って書こう」
(光村図書 三下)



様々な役割の修飾語を加えて文を作ってみましょう。

ポイント

例えば、主語と述語のみの文を提示し、修飾語を加えて、文をくわしくします。そのときに「いつ」「どこの」「どんな」「どのように」など修飾語の様々な役割について意識させます。

修飾語を加えるときに、ただ増やすのではなく、より分かりやすくなったかという点で文を読み返すことが大切です。

第6学年 6月

「文の組み立て」
(光村図書 六)



語句の係り方や語順に気をつけて、文を作りましょう。

ポイント

高学年では、文の中での語句の係り方や照応の仕方に気付き、いろいろな文の構成があることについて理解することができるよう指導することが大切です。

例えば、構造からみて、単文・複文に分けたり、性質や機能からみて、平叙文、呼び掛けや疑問文、応答を表す文、命令や承諾を表す文、推定や伝聞を表す文、感動や感嘆を表す文に分けたりすることなどが考えられます。

この単元で学習したことを、他の単元や日常生活の中で文章を書くときに意識することが大切です。相手に分かりやすい文になっているか。誤解を与えないような組み立てになっているかを確認するようにしましょう。